

## 平成 26 年度第 2 回石狩市男女共同参画推進委員会

【日 時】 平成 27 年 2 月 26 日 (木) 18:00—20:00

【場 所】 市役所 3 階 庁議室

【出席者】

役 職	委 員		職 員 (事務局)			
	氏 名	出欠	所 属	役職	氏 名	出欠
委員長	阿部 包	○	環境市民部長	部長	三国 義達	○
副委員長	高田 良次	○	広聴・市民生活課	課長	田村 奈緒美	○
委 員	岩田 眞智子	○	広聴・市民生活課	主幹	吉田 雅人	○
	設楽 正敏		広聴・市民生活課市民活動 担当	主査	清水 千晴	○
	佐藤 弘美	○		主任	渡邊 史章	○
	荒川 よし子	○		主事	瀧坪 真里依	○
	築田 純子					
	阿部 文子	○				
	草島 猛	○				
	工藤 美和子	○				
	袴田 律子	○				
	若林 厚一郎					

【傍聴者】 0 人

=====

【阿部委員長】

これより平成 26 年度第 2 回石狩市男女共同参画推進委員会を開催します。本日の欠席は設楽委員、築田委員、若林委員となっています。ここで事務局職員の紹介を事務局よりお願いします。

【事務局(田村)】

みなさまお疲れ様でございます。私ども広聴・市民生活課のほうに在籍はしておりましたが、11 月に育児休業明けということで復帰してまいりました職員がおりますので紹介させていただきます。瀧坪です。

【事務局(瀧坪)】

よろしくをお願いします。

【事務局(田村)】

事務局職員として一緒にやっておりますので今後ともよろしくお願いいたします。

【阿部委員長】

それではあらためまして本日の予定です。

まずは報告事項ですが、1 点目に今年度 8 月以降の実施事業について、2 点目に第 2 次石狩市男女共同参画計画の平成 25 年度の進捗状況について、3 点目に昨年実施した意識調査の結果について報告を受けます。次に協議事項ですが、第 3 次石狩市男女共同参画計画についてとなっ

ております。

なお、本日は市から第3次計画の策定にあたっての提言依頼を受けることになっています。また、協議にあたっては、新しい手法だと思いますが、グループに分かれてディスカッションを行う予定です。

20 時を目処に終了したいと思いますので、円滑な審協議を進めるためにご協力をお願いします。

事務局から事前に送付された資料のほか、第2次石狩市男女共同参画計画の冊子はお持ちでしょうか。お持ちでない方は事務局にお伝えください。

それでは議事に入ります。まずは今年度の実施事業について、事務局は説明をお願いします。

#### 【事務局(渡邊)】

私のほうから前回の推進委員会以降の実施事業についてご報告させていただきます。平成 26 年8月から平成 27 年2月まで5つの事業を行っております。

まず市の単独事業として 11 月 11 日から 23 日まで図書館で女性に対する暴力をなくす運動のパネル展を開催しております。この期間中の 11 月 15 日に同じく図書館で DV 相談窓口を開設しましたが、相談者はおりませんでした。

次に 11 月 29 日に男女共同参画のワークショップをりんくるで行っております。北海道立女性プラザの館長であります笹谷春美さんを講師としてお招きし、参加者は 40 名でした。男女別の内訳は女性 31 名、男性 9 名でした。講義の後にライフデザインオフィス K の小林とも子さんと当別町の並川農政課長のテーマトークを行い、その後グループワークを行っております。

続きまして2月 13 日に認知症サポーター養成講座を行いました。この認知症サポーター養成講座については、年に1度男女共同参画推進事業として、広聴・市民生活課が担当して行いました。講師については、工藤委員にお願いしております。参加者は 35 名で、男女別の内訳として女性 28 名、男性 7 名で講義の後は3班に分かれてグループワークを行いました。

そのほか他団体等の主催事業として、9月7日に京都府女性の船事業が花川北コミュニティセンターで行われております。参加者につきましては京都府の女性が 98 名、石狩市の女性が 28 名、計 126 名の女性がそれぞれ10 グループに分かれ、テーマに沿ってそれぞれの活動等について話し合うなど、交流されました。

最後になりますが、10月 17 日から 19 日に札幌コンベンションセンターで日本女性会議が開催されました。市役所からは部長、課長、主査、渡邊の4名が参加しております。始めに基調講演が行われ、その後それぞれの分科会に参加しております。実施事業につきましては以上です。

#### 【阿部委員長】

ご発言いただく前にお願ひがあります。議事録作成のため録音をしておりますので、私に指名されてから発言してください。また、なるべく大きな声で発言してください。

それでは質問などありましたらお受けいたします。もしよろしければ、報告のあった事業に参加して下さった委員からご報告いただきたいと思います。まずは9月7日の京都府女性の船に参加された佐藤委員、お願いします。

#### 【佐藤委員】

先ほどの事務局からの報告にあったように、10 のテーマでグループに分かれて話し合いました。私のグループのテーマは「地域のコミュニティ」でしたが、最終的には引きこもっている人達を、どうしたら家から出せるかということについて話し合いました。また、おいしいものをたくさん食べさせていただいたのが印象的でした。

【阿部委員長】

ありがとうございました。続きまして日本女性会議に参加された阿部委員、お願いします。

【阿部文子委員】

上手に話すことができないため、感想などを書いてきましたのでお読みください。

【阿部委員長】

皆さんのお手元に、阿部委員の報告書が配布されています。阿部委員は第9分科会に参加されたのですね。特別講演の講師は柔道家の山口さんというのはオリンピック選手ですね。最後に全体の感想が書かれています。楽しかったですか。

【阿部文子委員】

2日間の行事を通して参加、聴講出来たことは有意義でした。

【阿部委員長】

次に11月の男女共同参画ワークショップについて、荒川委員いかがですか。

【荒川委員】

ワークショップはとても楽しかったのですが、もう少し時間があればもっと深く話せたのではないかと思います。また、「みんなでつくる石狩市の男女共同参画」というテーマだったのですが、私自身石狩市の歴史など、市のことをあまりにも知らないなと感じました。

【阿部委員長】

もう1人、袴田委員いかがですか。

【袴田委員】

基調講演の中で、まだまだ女性の役員等が少ないという話が出ていましたが、本当にそうだなと思いました。いろいろな部分でまだまだ女性が働きやすい環境ではないと思いました。また、ワークショップでは男性は少なめでしたが、幅広い年齢層の方々がいたので、良いことだと思いました。個人的には、若い方がもっといてくれたら良いなと感じました。特に子育て世代が参加してくれたらと思いました。ワークショップの開催は昨年へ続き2回目ですが、こういった事業は長くずっと続けていかないと浸透しないので、これからも続けていただきたいと思いました。

【阿部委員長】

ありがとうございました。続けることによって、袴田委員が希望されるもっと若い世代が参加するようになるでしょうね。

【袴田委員】

当日とったアンケートの結果について、説明があったら良いと思いました。「石狩市で男女共同参画を推進するためにどのようなことをやったほうが良いですか」という設問もあり、結果を取り入れていったら良いと思いました。

【阿部委員長】

次に2月の認知症サポーター養成講座について、工藤委員いかがでしょうか。

【工藤委員】

例年どおり養成講座のテキストに沿ってお話した後、普段はしないのですが、介護についてのワンポイントアドバイスなども入れ、普段の講座よりも具体的な話をしました。その後、他のキャラバンメイトに手伝ってもらい、3グループに分かれて1時間弱、話し合いをしました。先日キャラバンメイトの集まりがあり、この時の話が出たのですが、それぞれのグループで有意義な意見が出ていたのでそれを吸い上げる場所があったほうが良いという意見が出ていました。また、今回は男性が7名参加してくれましたが、定年退職をしてこれから次の人生をと年代の男性の方が例年に比べて多く、これから自分が何をしていくのかを考えているということに参加したという方が多かったです。どちらかというと実際に介護に困っているという方よりも、今後のためにという方が多かったという印象を受けました。

【阿部委員長】

ありがとうございます。全体で何かご意見等ありませんか。

【事務局(田村)】

先ほど袴田委員からお話がありました男女共同参画のワークショップでのアンケート結果につきましては取りまとめが済んでおりますので、お帰りまでにお渡ししたいと思います。また、後ほどお話しさせていただきます説明の中でワークショップの中で出されたご意見につきましても紹介させていただきます。

【阿部委員長】

それでは昨年度の第2次石狩市男女共同参画計画の進捗状況に入ります。

【事務局(渡邊)】

私のほうから平成 25 年度の進捗状況についてご説明させていただきます。資料の1ページ目後段の表ですが、ご覧のとおり順調に進んでいる状況と考えております。詳細につきましては事前に送付いたしました年次報告書に記載されておりますので概要についてご説明いたします。表1で未実施事業が 12 事業となっておりますが、そのうち平成 26 年度以降実施予定の8事業についてご説明いたします。1つ目の「男女共同参画計画策定に向けた市民意識調査」の実施についてですが、5年に1度の調査なので平成 25 年度は実施しておりませんが、平成 26 年8月に実施しております。次に8つ目の「認知症サポーターフォローアップ講座の開催」についても、平成 25 年度は実施しておりませんが、この事業は数年に1度行うこととなり、平成 27 年3月に行う予定です。続きまして「市職員の意識づくりのための意識啓発の実施」、「市内各団体等に対する働きかけ」、「ロールモデルの発掘、周知」については平成 27 年度以降実施予定としております。次に、「市民が主体となる講座への支援」、「団体等の支援」につきましては実際にまだ動いてはいませんが、平成 27 年度以降仕組みづくりをしていきたいと考えておりました、今後団体等に対する働きかけや支援について、たとえば実行委員会を作るなどから始めていきたいと考えています。7番目の「計画した介護サービス事業等の整備促進」についてですが、課題解消に向けて多角的な検証と多様な意見等を

踏まえながら、福祉施設などの運営のあり方も含めて今後総合的に検討していくということになっております。

続きまして表2-2についてですが、今後見直しも含めた再検討予定の4事業ということで記載しております。

次に表3の成果指標の達成度についてですが、前回の推進委員会で報告しておりますので割愛させていただきます。第2次石狩市男女共同参画計画の平成 25 年度の進捗状況については以上です。

#### 【阿部委員長】

平成 27 年度に実施するもの、それから平成 27 年度以降に実施するものについての説明がありました。この件についてはよろしいでしょうか。

それでは次に男女共同参画に関する市民意識調査等の結果についてですが、この後予定している第3次石狩市男女共同参画計画についての協議の中で報告を受けたいと思います。

その他についてですが、平成 27 年度の重点的取り組み事項について私からお話します。例年であれば次年度の重点的に取り組む視点を決めて進めていくところですが、来年度は計画策定年でもあり、また、現行計画の最終年であることから事務局と話し合い、来年度は重点的に取り組む視点は決めず、次期計画の準備年として、計画の策定と現行計画において未実施の事業に取り組むことに絞って、男女共同参画を推進していくことが望ましいという結論になりました。当然未実施の事業は実施していく、計画の策定する年であるため策定のために準備をしっかりやる年ということにしていきたいとのことです。なお、事務局によると例年実施しているパネル展その他の啓発事業は実施予定とのことです。また、来年度もワークショップを予定しているとのことです。継続的にそれらを行うことになっております。この点についてご意見等ございましたらお願いいたします。

それでは協議事項に移りたいと思います。第3次石狩市男女共同参画計画について事務局は説明をお願いします。

#### 【事務局(田村)】

石狩市では平成 12 年に、本市における第1次計画であります「いしかり男女共同参画プラン 21」を策定しております。それ以来、男女共同参画社会の実現に向けて取り組みを進めておりますが、先ほど委員長からご説明がありましたように、平成 27 年度は現行の第2次計画の終了年となっております。今後も引き続き男女共同参画の取り組みを進めていくために、第3次計画として平成 28 年度から新たに始まる計画を策定してまいりたいと考えており、そこでこの委員会にご協議をいただき、ご提言をいただきたいと思っておりますので、市から提言のご依頼をさせていただきます。本日市長が公務により出席がかないませんでしたので、環境市民部長の三国よりお渡しさせていただきます。

#### 【三国環境市民部長】

3次計画の推進の策定依頼でございます。よろしくお願いいたします。

#### 【阿部委員長】

ただいま市から第3次計画についての提言を依頼されました。重い責任を負ったということになり

ます。これから次期計画について協議してまいりますのでよろしくお願いいたします。

ではあらためまして、市民意識調査の結果報告について、また、第3次計画の策定方針の説明を合わせて事務局をお願いします。

#### 【事務局(清水)】

まず、市民意識調査の報告をさせていただきます。全体的に、多くの設問では意識や言葉の周知度という面で男女共同参画が進んでいて、特に 20 代の若い世代で進んでいるという印象を受けています。

ではあらためまして、平等感からみていきます。11ページをご覧ください。7つの項目の平均値について、意識全体の男女別のグラフを見ますと男性のほうが男女平等だと思うという方が多く、女性の方が少ない。女性は男性が優遇されていると感じている方が多いという結果になっています。この結果は他の設問でも同様で、女性は男性が優遇されていると感じている、男性のほうは男女平等だと感じている傾向が見て取れます。

次に 14 ページをご覧ください。平等感の中でも私たちの生活と関連のある項目について具体的に見ていきます。まず、「家庭生活で」ですが、年代別で見ますと 20 代で平等感が高いことがわかりいただけるかと思います。また、下のグラフでは、前回の調査に比べると特に若い世代で平等感が上がっているということが結果として出ています。

次に 16 ページをご覧ください。今度は「職場・職業で」ということで平等感を訊いたところ、年代別に見ますと若い世代の平等感が高いことがわかります。また前回調査に比べると就労年代である 20 代から 50 代すべてで男性の平等感が下がっていて特徴的かと思います。

続きまして 18 ページ。こちらは「地域社会で平等だと思いますか」という設問です。40 代以下の若い世代では平等感が高くなっていますが、50 代が境になっているようで平等感が低くなっています。また、前回に比べて男性はすべての世代で平等感が上がっていますが、仕事をしている世代の男性は一般的に地域への参加があまりないと言われていいますので、何を持って平等と感じているかはわからないところです。

次に 26 ページをお願いします。「社会通念や慣習・しきたり」ですが、平成 10 年の調査から一貫して平等感は低い項目です。年代別にみると 20 代の特に男性の平等感が高いという特徴が出ています。20 代の女性もほかの世代の女性に比べて平等感が高くなっています。また、前回の調査に比べると 20 代の男性が突出して平等感が高くなっていることがわかります。

次に固定的性別役割分担意識について見てみます。総論としましては「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については反対する人の割合が6割で全体の半分以上になっています。また、女性の就労には肯定的で、家事や育児を担う人については男女ともに平等に、または手の空いたほうが行うのが良いと考える方が増加しています。これらを見ますと男女共同参画の観点からは進んでいると思いますが、子育ての個々の場面についてはその結果と少し合わないのではないかという結果が出てきます。これについて1つ1つ見ていきます。

まず 27 ページの下のグラフをご覧ください。男女別に見ますと「男性は仕事、女性は家庭」という考え方については、男性は賛成、女性は反対する割合が高くなっています。20 代は比較的男女の意

識差が小さいのですが、30 代以上の男女は意識の差が大きくなっています。また、性別役割分担に反対する割合が前回に比べて女性の伸びが大変顕著になっているのがわかります。

次に 29 ページをご覧ください。女性が職業を持つことについてどう考えるかという意識調査です。「子供ができれば仕事をやめて大きくなったら再度就業する」といういわゆる M 字カーブを描く考え方と、あるいは「子供ができて仕事をやめないで働き続ける」と考える割合が高くなっています。特に「子供ができてやめないで働き続けたほうが良い」と考える方が調査ごとに増えているのがわかりいただけるかと思います。男女間でほとんど意識の差がありません。また、「子供ができて職業を持ち続けたほうがよい」と回答した人の割合は、前回に比べて多くの世代、特に 20 代から 40 代の子育て世代の男性で大きく増加しています。これによって、前回の調査では女性に比べ、女性の就業に消極的だった男性の意識が現在は女性と変わらなくなっています。かえって 20 代、30 代は男性のほうが高くなっているような状況です。これらを踏まえると、実態としては共働き家庭も増えていきますし、意識としても女性の就業に積極的な意識が確認されました。

では、これまで主に女性が担ってきた家庭での家事や育児の担い手についてどう考えているかを見ていきます。31 ページの上のグラフをご覧ください。「家事や育児は男女平等に」もしくは「手の空いてるほう」と考えている割合は調査ごとに増加しています。「主に女性」と考えている割合は、最初の調査を実施した平成 10 年では 4 割以上でしたが、調査ごとに下がっていて、今回は 2 割以下となっています。

37 ページをご覧ください。子育て等の個々の場面について見ると、「3歳くらいまでは母親が育てたほうが良い」と考える人は 6 割います。39 ページの「保育園等への送迎やお弁当づくりは母親の役目」と考える人の割合は約 5 割となっています。いずれも反対よりも賛成する人の割合が多く総論としては、「男性は仕事、女性は家庭」ということに反対するが、各論に入ると様子が違ってくるという印象です。

では実際に男性と女性の仕事と生活のバランスはどうなっているかを見てみたいと思います。45 ページをご覧ください。ここでは仕事と生活の調和(ワーク・ライフバランス)の状況について訊いています。女性は家庭生活を優先している人の割合が 1 番高くなっていて、一方男性は仕事を優先している方が相変わらず高いという状況になっています。

次に家事に焦点を合わせてみたいと思います。34 ページは、家事を実際に誰がやっているかという設問です。「家事を配偶者や家族と分担している」と回答した人の割合は男女とも減少の傾向です。特に男性が減少しています。一方「主に自分がやっている」と回答している人の割合ですが、女性は減少傾向で、男性は子供の世話以外はすべて「主に自分がやっている」と回答した人の割合が高くなっています。

必要な取り組みについてですが、47 ページをご覧ください。ここでは「家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくのにはどうしたらよいか」という問いに対して、1 番多かったのは「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよく図る」ということでした。そのほかには「男性が家事に参加することへの男性自身の抵抗をなくすことや、「社会での評価を高めるということが大切だ」という意見が多かったです。

また、市に対しての期待としては1番多かったのは子育てです。こちらは市の保健福祉部が推進しているところです。2番目に多かった介護についても同様です。3番目に多かった学校教育については教育委員会が推進しています。4番目から6番目については男女共同参画を所管している広聴・市民生活課が主に推進している内容となっております。

続きまして、男女間における暴力に関する市民調査についてですが、全体の傾向として、身体的、精神的、性的暴力行為について男女間の認識の状況を見ると、男性は暴力と見ていなくても女性は暴力と見ている傾向が見られました。特に言葉や態度などの暴力行為について意識の差が顕著に見られました。

次に 54 ページをご覧ください。石狩市民の被害の状況ですが、実際の被害状況として過去5年間に1、2度または何度もあったと回答した方は 16.3%でした。男性は 10 人に1人、女性は 5 人に1人があったと回答しています。

次の設問では、被害を受けた人の中で相談しなかった人が多いという結果が出ています。特に男性は7割が相談しなかったと回答しています。次に、被害を受けた人を知っていると回答した方は女性が3割、男性が2割いました。また、相談窓口の認知度ですが、まず訂正をお願いします。下のコメント部分ですが、「男女とも知らない」と回答した人の割合が知っていると回答した人の割合より低い」と書いていますが「高い」の間違いです。申し訳ございません。

次に 10 代、20 代の若年層の状況について聞いたところ、「交際相手はいる」または「いた」と答えた方は女性 16 名、男性 9 名の計 25 名からの回答に対する分析ですが、そのうち、暴力行為またはストーカー行為が「1、2度」または「何度もあった」と答えた方は女性2名、男性1名の計3名いました。この3名のうち相談しなかったという方が男女ともに1名ずついました。

最後に参考値の 18 歳、19 歳の回答についてです。回答数が大変少なく 15%だったことを踏まえたうえでの報告になりますが、男女共同参画に関する言葉の認知度が大変高く、男女雇用機会均等法や男女共同参画社会という言葉の認知度は 100%で、ジェンダーという言葉についても 86.7%の方が知っているということでした。性別役割分担意識ですが、反対という方が多く8割の方が反対されています。男女間の暴力については交友関係や電話の監視は女性の方が暴力とは思わないという回答があり、男性はいませんでした。また、「誰のおかげで生活できるんだ」「甲斐性なし」などの言葉について、ほとんどの男性は暴力と考えていますが、女性は2人が暴力とは思わないと回答するなど、女性の方が暴力とは思わない傾向が見られました。なお被害については遭ったことがあると答えた方はいませんでした。

#### 【阿部委員長】

それでは第3次計画策定方針の説明を事務局をお願いします。

#### 【事務局(渡邊)】

期間につきましては平成 28 年度から 32 年度までの5ヶ年となっております、石狩市の現状として、まず第2次計画の進捗状況については先ほどご報告したとおり、一定程度順調に進んでいると考えております。

次に市の各部署における推進ですが、個別計画として引き続き各部署により進めている状況です。

平成26年8月に実施した市民意識調査については、今説明があったとおりの結果となっております。

第3次計画の策定方針ですが、現行計画をベースに実現可能な新規施策を盛り込み、既に達成済みの施策の削除等を実施することとしております。

社会情勢の変化につきましては、DV 関連の反映、デート DV などの若年層に対する啓発を促進していくこととしております。

計画策定にかかる市民参加手続(市民意識調査やワークショップ)結果としては、男女共同参画についての学習機会の充実、男女平等意識の啓発、夫婦間、家族間のコミュニケーション促進の啓発、男性の家庭・社会参加に関する評価・啓発などに対する要望が多くありました

続きまして国からの要請事項ですが、女性地方公務員の活躍の促進等ということで、女性地方公務員の採用と登用の促進、審議会等委員等への女性の参画拡大、ワーク・ライフバランスの推進と企業における女性の活躍の推進ということでワーク・ライフバランスの推進が挙げられ、職場環境整備についての働きかけについて強化していくということになっております。

次に前回の男女共同参画推進委員会からの提案、意見としては、第2次計画は項目を絞ってきましたが第3次計画も一層絞って項目数を減らし、実現可能な施策に集中できることを期待したいということと男性に浸透させるため男女ともに参加、ターゲットにする企画や項目の検討を願うという内容をいただいております。

次に成果指標の設定についてですが、今まで9項目の成果指標を設定しておりましたが、今回は2項目に絞り、第2次計画から継続して設定したいと考えております。1つ目は市の審議会等委員に占める女性の割合です。これについては平成 26 年7月時点で 37.0%と非常に高い数値となっておりますが、団体推薦枠の数値が低い等があるため今後伸びる可能性が低いと考え、成果指標として設定したいと考えています。2つ目は市役所の管理・監督職いわゆる主査職以上の女性に占める割合も成果指標として考えております。国は 2020 年までにあらゆる分野で指導的地位に女性が占める割合が 30%程度になることを目指していますが、現在の石狩市においては職員構成の関係もあって、2020 年までに 30%は難しいと考えており、今後人事担当部署と協議しながら目標値を設定したいと考えております。

最後になりますが、平成 27 年中に閣議決定予定の国の第4次男女共同参画基本計画について、1月下旬に開催された男女共同参画会議へ提出された資料より市の取り組みと関連性の強いものを抜粋しております。まず計画が果たす役割の明確化、施策の選択と集中、推進体制の強化を通じて真に実効性のある計画にすることとなっております。数値目標を重要なものに絞り、2020 年に 30%を各分野で達成するためのロードマップを明らかにしてさらに踏み込んだポジティブアクションを実行する。男性にとっての働き方の改革、子育て・介護と仕事との両立支援に向けた取り組みを含めあらゆる場面における施策を充実させる。最後に女性に対するあらゆる暴力の根絶に向けて取り組みを強化することとなっております。

全体的に第3次の計画については要点を絞り、実現可能で今までと同様啓発を継続していく。先ほど言いました国の計画の動きを見ながら第3次計画に反映していきたいと考えております。

## 【三国環境市民部長】

委員長よろしいでしょうか。先ほど提言依頼したこともありまして、私の方から一言ごあいさつ兼思いをお話しさせていただければと思います。

担当とよくディスカッションしているのですが、この計画を作るにあたっては、想像力をたくましくと言いますか、できれば背景を意識したものを計画に盛り込んでいきたいと、そして皆様方からもそういった視点でご意見を出していただければと思っております。具体的に申しますとアンケートの中で 30、40 代の男性の意識が上がっていますが、果たして実際はどうなのか。私は今 50 代ですが、50 代の男性の常識として、こういうことを言ったら今の世の中セクハラになる、こう言ったら社会的に問題発言になるという認識が高まっていますが、それを本当に生活の中に植えつけて行動しているだろうか。このような背景も入れながら、研修、啓発についてもただ標語的なものを並べるのではなく、ターゲットを絞ったものにし、具体策として盛り込んでいきたいと考えています。例えば高齢者には頭ごなしに格好もつけず「男は仕事だ」という方もいると思いますが、高齢者クラブや町内会の総会、懇親会の場で男女が普段とは逆の役割を試してみるなどゲーム感覚で研修をするのも良いかと思えます。

それから DV 対策については、その背景が社会的な問題となっており、石狩市も他人事ではないという状況が見受けられます。特に若年層の部分について、これは男女間だけではないと思っています。子供達の中に、人に対する感覚、自分と他者を思いやるという感覚が非常に欠落したケースが多々見受けられ、それがトラブルの元になっていると考えています。DV は若年層を中心に、こういう内容にターゲットを絞って、今ではなく次の世代または今後のためにもご検討いただけないかと思えます。

数値的な部分を分析すれば確かに第 2 次計画の進捗状況は順調と言えますが、内容によっては、例えば子育て環境の整備など、別の施策のニーズもあって実施されているものもあります。それをもって男女共同参画が達成できているとは我々も全然思っておりません。背景をどんだんご議論いただいて、その奥底から具体策を見出していただければと思っております。

計画を作るのに 1 年間という短い期間ではありますが、積極的なご意見を賜われればと思っておりますのでどうぞよろしくお願いたします。

## 【阿部委員長】

ありがとうございました。励ましをいただき、かなり責任が重いなと感じているところです。

ではこれから 3 つのグループに分かれてディスカッションをしたいと思います。この後の進行は事務局をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

## 【事務局(清水)】

ただいまより 3 つのグループに分かれて、7 時 35 分までグループディスカッションを行っていただきます。テーマとしては、家庭、地域での男女共同参画の推進や職場での女性の活躍、また今部長が申し上げた若年層の DV の防止・啓発などいろいろ考えられるかと思えます。グループディスカッションの後でグループごとの内容の発表及びその発表についての質疑を行うこととします。なお、各グループの進行及び書記は事務局が勤めさせていただきます。

グループ分けは男女割合を均等にするなどを踏まえて事務局で決めさせていただきました。A グループに阿部文子委員、荒川委員、草島委員、B グループに阿部委員長、岩田委員、袴田委員、C グループに佐藤委員、工藤委員、高田副委員長、よろしくお願いします。

[グループディスカッション]

<発表>

【C グループ清水】

今度の計画では、まず男女には性差があることを認めることから始めるのが良いのではないかという話になりました。これまでは平等ということが謳われていましたが、平等というのが「女性も重たいものを持って」とかいったことではなくて、男女の性差というのは DNA かわかりませんが、既定されているところは必ずあると思いますので、そういったことを踏まえないと無理が生じてしまうので違うことを認識したうえでどうするかを考えた方が良いのではないかということになりました。

また、「男性はいろいろな面で弱い」という話で大変盛り上がりました。女性は放っておいても横のつながりも作れるし、家庭内では何でもやってきたため生きていけますが、男性は退職してから行き場がないとか奥さんの後を付いていくばかりになっていくようです。先日、市長が会長を担い委員は部長職で構成される市の男女共同参画行政推進会議が開催されて、そこで市長が話したのですが、男性の8割は自分の奥さんに満足しているが、奥さんは旦那さんに満足しているのは3割しかないということで、皆笑っていました。また、男性は家庭内で何もできないというイライラ感がつのっていて、これが高齢層の DV に繋がっていることがなくもないと思います。

【C グループ工藤委員】

介護の現場では、奥さんが認知症になった場合、旦那さんが来るのを嫌がるケースが多く、逆に旦那さんが認知症になった場合、奥さんが来ることを嫌がる場合はほとんどありません。

【C グループ清水】

次期計画のポイントの1つとして、男性に対する何かを考えるのは良いのではないかと考えます。

次に DV については、小中学校は学区が高校に比べて狭いので、保護者の方も学校で何かをやるとしても行きやすいし、環境としては良いのでターゲットにすると良いのではないかという話が出ました。また PTA の研修部に啓発事業等を採用してもらうには、スマートフォン環境で起こる被害など、内容が興味を引くものが良いということでした。

【A グループ瀧坪】

A グループでは主に DV のことと家庭や地域での男女共同参画について話し合いました。どちらも根底には相手を尊重しない、相手を自分の所有物だと思っているといった個人それぞれの気持ちがあるために、DV や家庭内でのいざこざが生じているのではないかということで、その点について改善する必要があるのではないかということになりました。

具体的には、例えば教育現場でも会話する時の話し方について、相手のプライドを傷つけない、相手の気持ちを受け止めてからソフトな言葉掛けをするなどといった流れになっているので、教育だけでなく、地域や家庭でも行っていくような取り組みをしていくのが良いという話になりました。

年代が上になると今までの人生を否定された気持ちになってしまうのではということでもなかなか働きかけが難しいかもしれませんが、特に DV は親が DV をしていたらその子供も DV をしてしまうという流れがあるので、まだ考え方が定まっていない若年層に対して、相手を尊重する、相手は自分の所有物ではなく相手にも人権があるという意識を、特に若年層に働きかけることが重要であるという話になりました。

#### 【B グループ渡邊】

B グループは主に夫婦間のあり方について話し合いました。現在、共働きをする夫婦が多いのですが、生活のためにやむを得ず共働きになっているのではないかとということでした。

また、先ほどの意識調査も含め数字的には男女共同参画の状況は進んでいます、楽観視できるものではないのではないかと話も出ました。

意識調査では、18、19 歳の回答率が低いことから、高校や大学にアンケートをお願いするなどして若年層がどのように考えているかを把握したほうが良いのではないかと話も出ました。B グループにいらした阿部委員長によると、今の大学生は専業主婦を希望している人が多いということでした。

また、男性は「平等」とはどういうことなのかをあまり理解しておらず、家事をしてもたまにしかしていないのにもやっているというような表現をする男性もいるという話も出ました。

DV に関しては、部長も申しておりましたが、DV は男女間だけでなく人に対する思いやりが欠けているのが問題であって、幼いうちからの教育が必要だという話になりました。小学生は正直なので、問題を提起して小学生に議論させると大人も勉強になることもあるのではないかと話も出ました。

基本的には男性は頭ではわかっているが行動が伴っていないという意見も出ました。

今後の計画策定に向けて若年層にどのように啓発をするかということになり、議論することが非常に重要だけれどもどうしたらワークショップなどに若年層の参加者を増やせるかということについて話し合いましたが、若者向けの話ができる講師をお願いするなど、今までにないような発想が必要なのではないかと話になりました。

#### 【阿部委員長】

ありがとうございます。各グループの発表内容に対して何かご意見、ご質問等ありましたらお願いします。

#### 【三国環境市民部長】

大学生が専業主婦を希望しているというのはどういったことでしょうか。

#### 【阿部委員長】

教師なので、こういう社会なのでみんな仕事に就きたいと思っているだろうという予想をするのかもしれませんが。現代社会における非正規や契約社員などといった就業形態の増加が背景にあり、勤めても1年しか勤められないなどの状況があるので、結婚した相手の給料だけで2人が生活していけるのであれば自分は辞めても良いという感覚は大分強くなってきていると思います。ただ残念ながら結婚した相手の男性も非正規雇用の場合が多いので、2人とも働かなければ生活が成り立たないという社会情勢も背景にあって、専業主婦になりたくてもなれる人は少ないと思います。

【三国環境市民部長】

ありがとうございます。

【阿部委員長】

他によろしいでしょうか。今回出された意見等について事務局は計画策定に配慮していただきたいと思います。

グループワークをやってみてどうだったでしょうか。私はこのようなグループワークの形態は良かったと思います。ここで「ご意見あります」と訊くよりは少人数に分かれて話し合ったほうが意見は出ると思いますので、今後も事務局と相談しながら、生産的であればまたこのような場を設けたいと考えております。

以上を持ちまして、平成26年度第2回石狩市男女共同参画推進委員会を終了いたします。

平成 27 年 3 月 23 日議事録確定

石狩市男女共同参画推進委員会

委員長 阿部 包